OPINION　中部経済新聞

ナビゲーター

日本への期待　世界各地から

（信濃・長沢リーム中産連）

⌘ 97

# 最新の技術革新に触れた日本での10日間

## カザフスタンから（上）

今年6月25日、カザフスタン最大のブロイラー鶏肉生産会社であるアレル・アグロ社の代表団一行は、日本訪問を終え、アルマトイに戻った。私たちは10日間を日本で過ごし、日本の鶏肉関係会社のCEO、管理職、オーナーたちに面会し、懇談した。この訪問では互いの経験や知識を交換するとともに、最新の技術革新を見学し、ブロイラー生産における新たなチャンスを模索するため、綿密に計画された。

筆者らの国カザフスタンでは、「日本産」に対する評価は極めて高く、日本産と表示される製品はすべて、手頃な価格で比類のない品質であると考えられている。その上、この15年間で「カイゼン」（改善）はカザフスタンでは一般的な用語、かつ慣行となり、生産効率と品質管理を改善する持続可能で、かつ効果的な方法として進展し、拡散してきている。あらゆる規模の企業が自社のビジネスや顧客に利益をもたらすために、日本の生産文化や手法を学ぶために、トレーナーやコンサルタントを雇いつつある。

アレル・アグロ社は、食品生産において最も先進的な企業の一つとして、トヨタ生産方式（TPS）とカイゼンの実施において多くの経験を有してきた。事業を発展させる機会をたえず探し求めている私たちは、鶏肉関連業界における最新の動向を学ぶために、日本を訪問するのが最適であると判断した。そこで、養鶏場の責任者、食肉生産工場の管理者、獣医師、各種技術者、そのほかの主要スタッフを含む17人の代表団を日本に派遣し、現地の鶏肉関連事業者との交流を図ることにした。

10日間で愛知、宮崎、東京の3地域と、養鶏、加工、飼料生産、マーケティング・販売に関連する10社以上の企業を訪問することができた。各地の訪問先では情報を収集し、不明な点や相違について質問し、回答者との意見交換を行った。地球の反対側にいる「仲間」からの温かい歓迎は、有益でかつ実りあるイベントの鍵となった。同業者として共通の課題や法的な規制があることで、国は異なれども、仲間たちと私たちは意見交換することができたのだ。それぞれの回答者は、私たちが業務を遂行するにあたって、貴重な知識や実践的なヒントを与えてくれた。

例えば、宮崎大学の産業動物防疫リサーチセンターの三澤特別教授による講義。鶏を介する病気のまん延を防ぎ、減少させるための方法についての情報は、日本で使用されている検査やより新しいワクチンについて、わが社の獣医師長が多くを学ぶのに役に立った。帰国次第、現在管理されていないリスクをカバーするため、日本の方式と同様の追加手順の開発に着手する予定だ。

今後も継続的にコミュニケーションをとり、特別教授と具体的な教育やマスタークラスを企画し、同業他社の獣医師も招きたいと考えている。つまるところ、病気を減らすことが消費者の安全にとって最重要であり、業界すべての関係者に共有されるべきものだということでしょう。

【ディナラ・イエッセン、リーム中産連】

（月曜日に掲載）